

織田1級鳥類観測ステーション

における鳥類の標識調査

林 武 雄

丹生郡織田町笠松地籍、六所山附近に建設される環境庁の1級渡り鳥観測ステーション予定地において、昭和48年10月15日から11月15日までの約1ヶ月間、環境庁の事業委託先である財団法人山階鳥類研究所によつて鳥類の標識調査が実施された。

この調査は、同所研究員真野 徹氏が担当し県自然保護課や地元野鳥の会員も協力した。調査の結果については真野氏から提出された資料により、ここに概要をとりまとめご参考に供する次第である。

このような貴重な調査に今後多くの協力者が得られるよう念願して止まない。

記

1 調査期間

昭和48年10月15日から同年11月15日まで(但し、荒天の日は調査しなかつた。)

2 調査地

丹生郡織田町笠松地籍標高約480メートルの山林(1級鳥類観測ステーション建設地附近)

3 調査方法

環境庁長官の許可を得て、鳥類標識調査のため、はり網37枚(延長約300メートル)を林間に張り、観測地を通過する鳥類を捕獲し、鳥体の計測等必要な調査を実施した後、合金製のリング(足環)を付して放鳥した。

※注 この足環は国際間で回収された際にも識別されるように、環境庁JAPANの記名とリングサイズ、番号が刻まれている。

4 調査結果

調査期間は、冬鳥の渡来最盛期であり、夏鳥、旅鳥の通過終期と漂鳥の移動期にあたり、この間14科38種3,565羽の鳥類に標識され、予想外の成果が得られた。捕獲には、おとり等は使用しないため、網にかからずに通過したものはこの数倍を越えるであろうから、この期間いかに多くの渡り鳥が通過するかがわかる。

特に日本でも数少ないキマユムクイ、ムギマキが記録されたことは大きな収穫でもあつた。

5 観測ステーションの役割

このステーションは、環境庁が昭和49年度までに整備する全国30ヶ所のステーション(内訳 1級9ヶ所 2級21ヶ所)をネットワークして世界各国間を往来する渡り鳥の生態にメスを入れ、各国間で資料や情報を交換しようというもので、さきに締結された日米渡り鳥保護条約や、日ソ、日豪条約のかけ橋にもなり大きな期待が寄せられている。

本県は主としてシベリア地方から渡来する冬鳥や日本列島を縦断する旅鳥や漂鳥が調査の対象となる。

既に諸外国では古くからこの調査に取り組んでいるが、日本では今日ようやく大規模な調査が実施されようとしたわけであり、各地からの回収報告が待たれる。

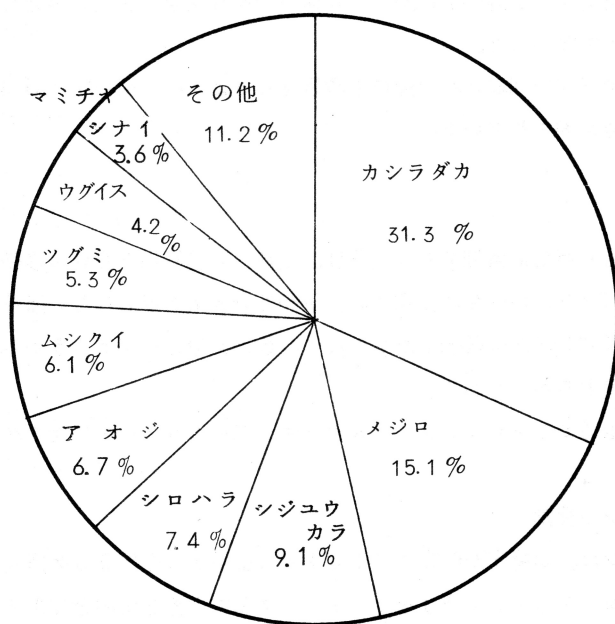
なお、ステーションでは標識調査のほかに生態観測やラジオテレメトリー調査（鳥体に小型の発信装置を付して行動を調べる）も計画されている。

6 記録された種類と数

カンラダカ(1,116) ホオジロ(46) アトリ(22) メジロ(539) ウグイス(151)
 シジュウカラ(323) ヤマガラ(7) ヒガラ(26) エナガ(40) ムシクイ(219)
 シロハラ(263) マミチヤジナイ(129) ツグミ(189) カケス(3) キビタキ(13)
 ムギマキ(7) コマドリ(5) ノゴマ(5) ヒヨドリ(25) ツミ(4) キマユムシクイ(1)
 ジョウビタキ(8) ビンズイ(1) モズ(9) クロツグミ(4) ノジコ(2) オオルリ(1)
 ルリビタキ(63) カワラヒワ(2) ミヤマホオジロ(8) クロジ(12) スズメ(1)
 アオジ(240) アカゲラ(6) アカハラ(5) ベニマシコ(36) マヒワ(2)
 ウソ(32) 合計38種 3,565羽 ※ 図表参照

(福井県自然保護課鳥獣保護係長)

標識された鳥類内訳



観測地における標識の状況

